



CAMPUS PLANNING AND MANAGEMENT OFFICE
NAGOYA UNIVERSITY

学生・教員の評価と 大学運営からみた教育環境

「学びの空間が大学を変える」出版記念セミナー
名古屋大学FM研究会特別セミナー

2010.08.03

名古屋大学 施設計画推進室
恒川 和久

KAZUHISA TSUNEKAWA



TOPICS

- 学生・教員の評価を取り入れた大学講義室計画
- 名古屋大学中央図書館ラーニングコモンズ
- 名古屋大学における学習環境・コミュニケーションスペースの展開

01 研究の概要

研究の背景・目的

- 大学 = 教育・研究の最高機関
学習環境施設の充実

- 施設運営にかかる費用は負担が大きい
少子化 大学間競争はますます激しくなる
適切な施設マネジメントの必要性

- 大学講義室
利用者である学生・教員の意見が取り入れられにくい



奥行が浅い講義室



奥行が深い講義室

研究の目的

利用者である学生・教員の講義室環境に対する意識を調査することで、その問題点やニーズを明らかにし、より効果的で効率の良い今後の講義室計画の指針を示すことを目的とする。

01 研究の概要

調査・研究方法

名古屋大学においてケーススタディを行う

2章

名古屋大学における
講義室調査

- 調査対象
学部講義室 174室

- 調査項目
講義室数
稼働率
面積
縦横比
学生席など

3章

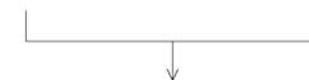
学生の視点からみる
講義室環境

- 学生講義室満足度と
各要素との関係

4章

教員の視点からみる
講義室環境

- 問題点やニーズの把握
教員講義室満足度と
各要素との関係



- 比較分析
- 最適な講義室環境

講義室数が同じであっても、講義室面積に差がみられる

学部により講義室規模に違いがある



図 2-1. 講義室数

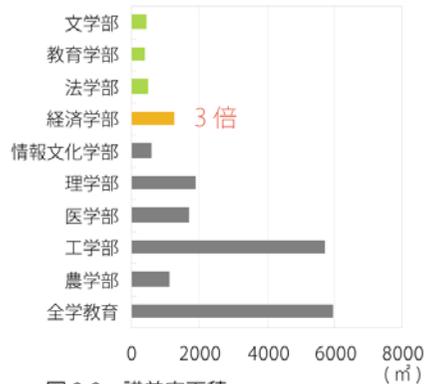


図 2-2. 講義室面積

120 m²以下の講義室が多数を占める

経済学部・医学部 学部単位の講義が多い

全学教育 比較的小人数の講義が多い

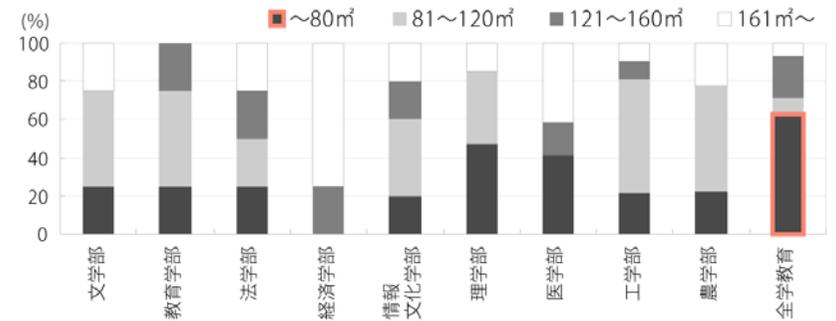


図 2-3. 講義室数の規模別割合

$$\text{講義室稼働率 (\%)} = \frac{\text{1 週間の開講時限数}}{25 \text{ コマ}} \times 100$$

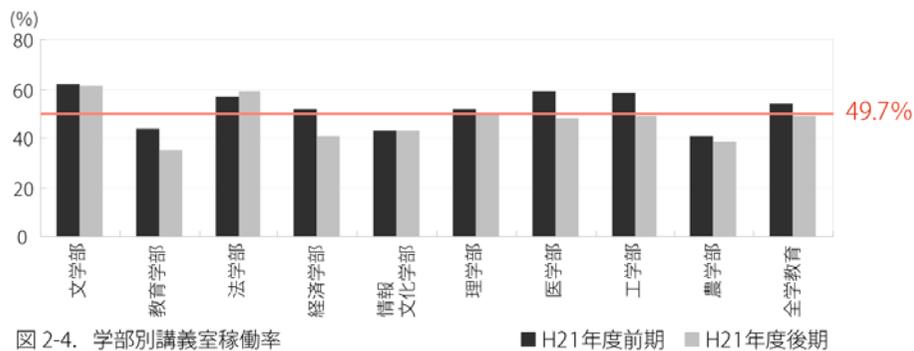


図 2-4. 学部別講義室稼働率

■ H21年度前期 ■ H21年度後期

法学部 学部授業のみの稼働率は少ない

大学院と共同利用することで高い稼働率を維持している

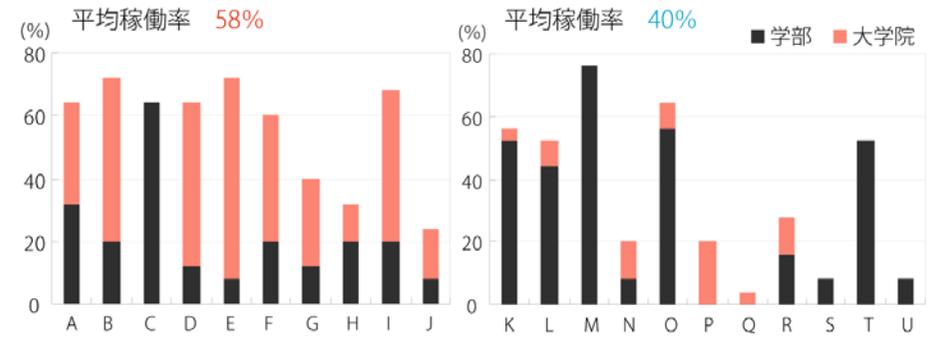


図 2-5. 法学部講義室別稼働率

図 2-6. 農学部講義室別稼働率

講義室満足度

「教室の広さ・授業環境等は満足できるものでしたか」
満足した +2、どちらかという満足した +1、
どちらかという不満であった -1、不満であった -2
平均値を講義室満足度とする。

授業満足度

「総合的にみて授業に満足しましたか」
満足した +2、どちらかという満足した +1、
どちらかという不満であった -1、不満であった -2
平均値を授業満足度とする。

表 3-1. 学生アンケート概要

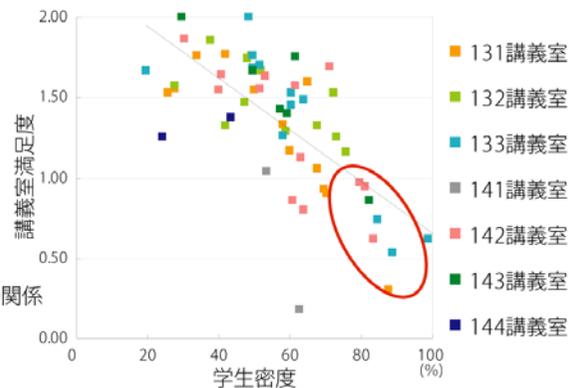
対象者	H20後期、H21前期 工学部専門科目を受講する学生	
分析対象	問18.教室の広さ・授業環境等は満足できるものでしたか。 問20.総合的にみて授業に満足しましたか。	
授業数	H20後期 262	H21前期 279
受講者数	18454人	19510人
回答者数	10144人	11368人
回収率	55%	58%

- ・学生密度と負の相関
学生密度の高さ学生の講義室満足度低下の要因
- ・授業満足度とも相関がある
講義室環境だけが講義室満足度に影響しているわけではない

表 3-2. 講義室満足度との相関係数

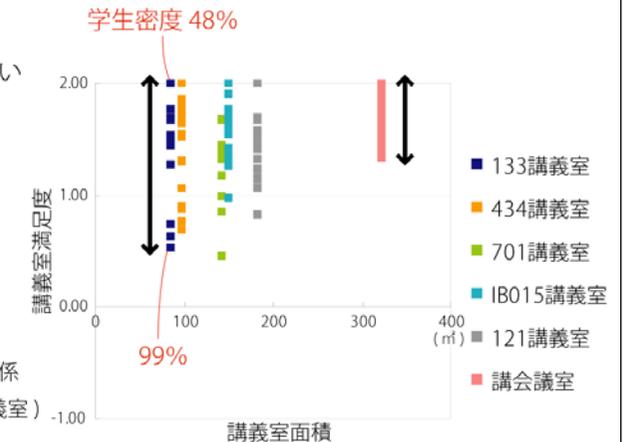
	授業満足度	学生密度	受講者数	面積	縦横比	稼働率
講義室満足度	0.316	-0.491	-0.208	0.158	-0.205	0.129

学生密度が高くなると講義室満足度は低下する
学生密度が 60～80% を超えると急激に低下する

図 3-1. 講義室満足度と学生密度の関係
(工学部 1 号館)

講義室面積が小さくなるにつれ満足度の振れ幅が大きくなる
満足度の差を生み出す要因は学生密度

面積が小さい講義室は
学生密度の影響を受けやすい

図 3-2. 講義室満足度と面積の関係
(縦横比 1.2～1.8 の講義室)

・学生の机椅子はどちらがよいですか

全学教育 可動 56%

工学部 固定 76%



・グループディスカッションを行っていますか

全学教育 行っている 32%

工学部 行っていない 93%



全学教育

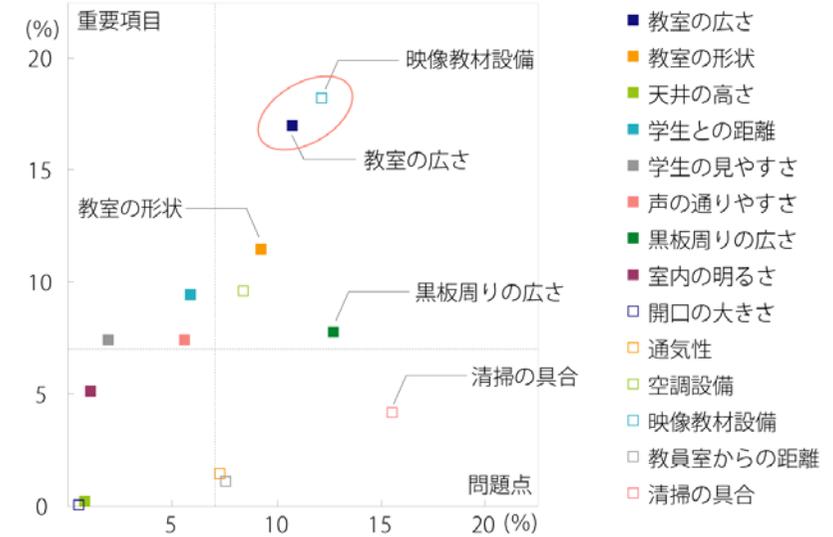


図 4-3. 問題点と重要項目の回答数の割合

工学部

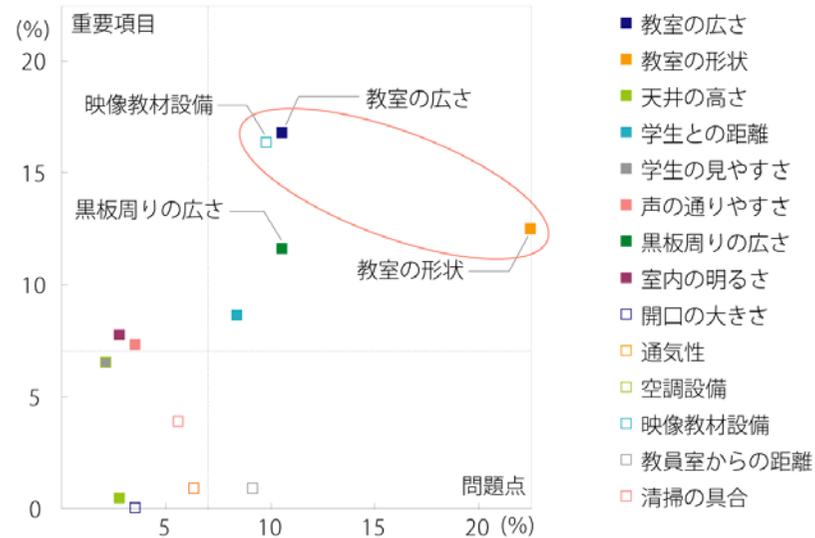


図 4-4. 問題点と重要項目の回答数の割合

講義室満足度

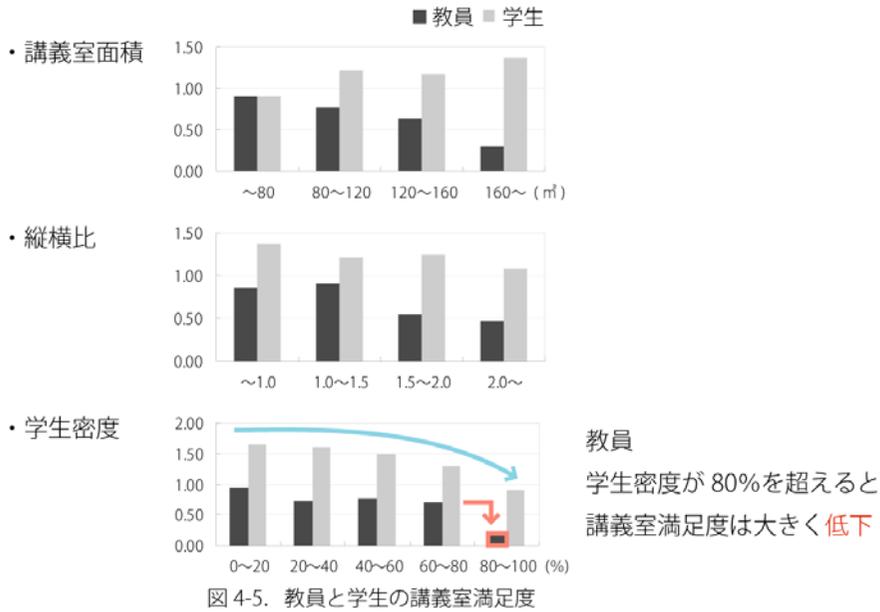
「現在の教室の満足していますか」

満足 +2、やや満足 +1、やや不満 -1、不満 -2

平均値を講義室満足度とする。

表 4-1. 教員アンケート概要

対象者	H21年度後期全学教育科目・工学部専門科目を担当する教員	
調査期間	H21.12.2~H21.12.24	
調査方法	Webアンケート	
調査内容	1.現在使用している講義室について 2.一般的な講義室について	
	全学教育	工学部
担当教員数	498人	190人
回答者数	216人	101人
回収率	43%	53%



- ・ 学生・教員双方の講義室満足度を高めるためには
 - 比較的小さい講義室を利用 (教員の講義室満足度増加)
 - 学生密度の抑制 (学生の講義室満足度増加)

- ・ 少人数教育、教育システムの見直し
- ・ 満足度の低い講義室の他用途への転用
- ・ 他学部間、大学院との講義室共同利用
- ・ スペースの集約化、利用率の向上

今後の課題

- ・ 大学院講義室も対象に入れた分析
- ・ 他大学、私立大学との比較

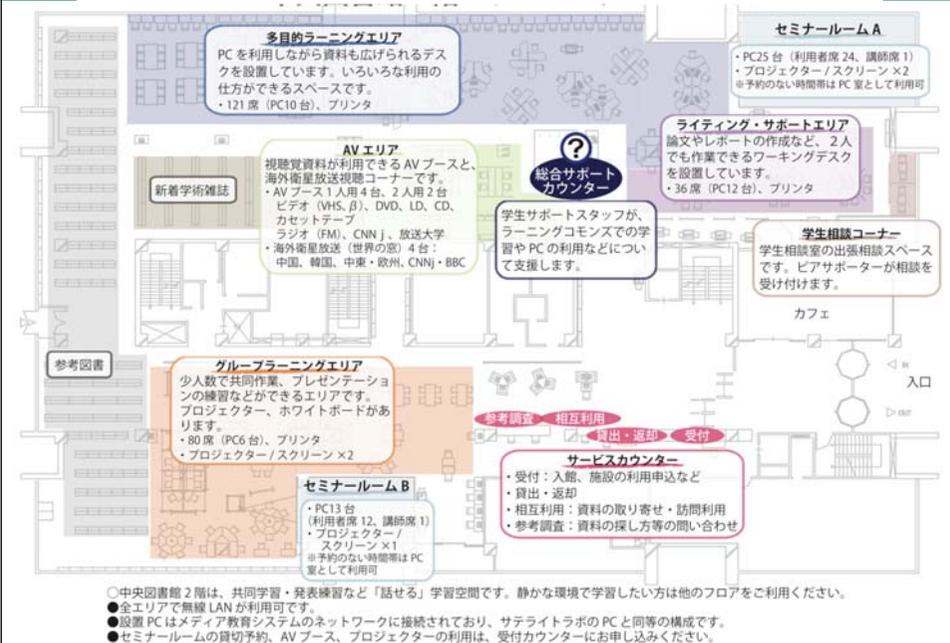
名古屋大学 中央図書館 ラーニングcommons

学習教育支援環境としてのラーニングcommons

- ・ 多様な情報資源と情報技術、および、それらを活用するための人的支援を統合した環境
- ・ 学生の多様な学習目標、学習形態、学習方法に対応
- ・ 学生の情報活用能力を涵養し、課題探求能力を有する人材の養成を支援



中央図書館2階 ラーニングcommons 平面図





セミナールーム

グループラーニングエリア



多目的ラーニングエリア

AVエリア

セミナールーム

学生相談コーナー

ワンロケーション・サービスの構築

総合サポートカウンター Support Desk

学生サポートスタッフが利用を支援します。
学内の関連部署との連携をとりながら、新しい学習支援サービスを行います。

開設時間： 月～金 15:00～19:00

ITサポート IT Support

PCの利用やネットワークへの接続、PCトラブルの相談に応じます。

- ・メディア教育システムの使い方/PCの使い方
- ・Word, Excel などの使い方
- ・館内での無線LANの使い方

学習サポート Learning Support

授業に関連した課題を解決する際に、調べもののコツ、手がかりなど、学習のちょっとした疑問に答えます。

- ・本・雑誌の探し方 (OPAC)
- ・館内資料の配置
- ・論文の探し方

ライティング・サポート Writing Support

資料の探し方・参考文献の書き方など、ライティングの基礎をサポートします。エリア内に関連図書があります。

ピアサポート Peer Support (2010年7月開始予定)

学生生活に関することなら何でも (勉強・部活・アルバイト・一人暮らしなど) 学生ピアサポーターが相談に乗ります。

多言語対応 Multilingual

	月	火	水	木	金
English	○	○	○	○	○
中文	○	○	○	○	○



I B 電子情報館 2005



地域と大学の交流拠点



エースラボ S 2009

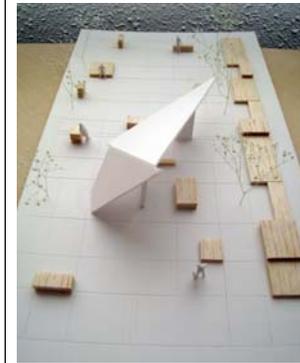
(ACE: Autonomous learning Community and Environment)

学生の個別・協調学習を支援
 自立的な学習、自由闊達なコミュニティを促進



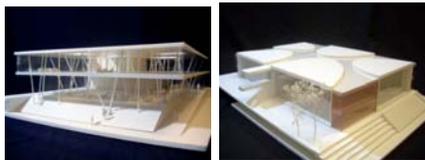
全学教育棟中庭 2009

異分野の学生・教職員
 ・アーティストによる
 コラボレーション

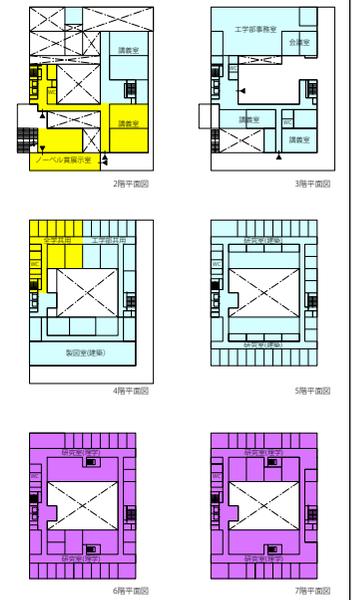


南部食堂改築 2010

食堂利用としてだけでなく、
 多様な居場所を装備



工学部新4号館+素粒子宇宙起源研究センター 2011

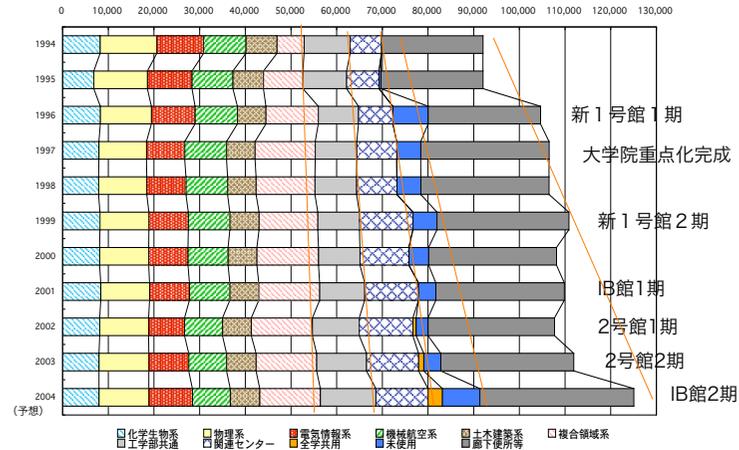


- ・ホール、図書館、講義室、ラウンジ、テラス、カフェ等多様なコモンスペース
- ・ホワイトボードとガラスの壁面による幅広い廊下



スペースマネジメント 共有面積の捻出と有効活用

工学研究科関連面積の推移



- ・ 計画的な移転計画と共有面積の捻出
- ・ 学生アメニティ・自主的学習空間の創出
- ・ 講座面積の平準化と最小化
- ・ COE等重点プロジェクトへの優先配分

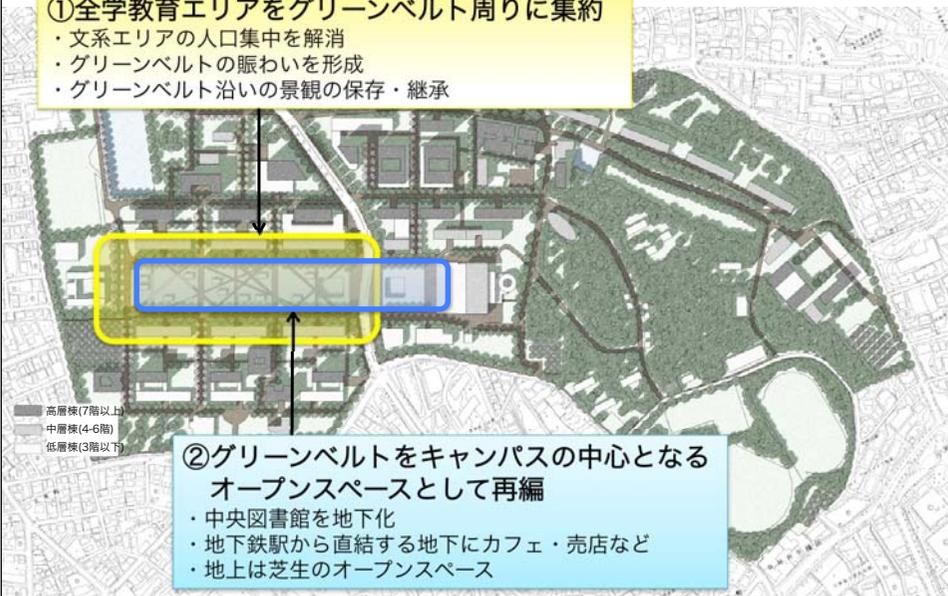
キャンパスマスタープラン2010



東山キャンパス 30年後のフレームワークプラン

①全学教育エリアをグリーンベルト周りに集約

- ・ 文系エリアの人口集中を解消
- ・ グリーンベルトの脈を形成
- ・ グリーンベルト沿いの景観の保存・継承



②グリーンベルトをキャンパスの中心となるオープンスペースとして再編

- ・ 中央図書館を地下化
- ・ 地下鉄駅から直結する地下にカフェ・売店など
- ・ 地上は芝生のオープンスペース

新たな学びの空間を創出していくためには

「全学的な教育に関する戦略」とともに

- キャンパスマスタープラン
- ファシリティマネジメント
- 空間デザイン力

が不可欠です。